

第59回 日本理学療法 学術研修大会 in東京



会報誌「JPTA NEWS」へのご意見・ご感想を募集しています。
右記のQRコードを読み取り、アンケートフォームからご回答ください。



第59回 日本理学療法 学術研修大会

in 東京

あなたの価値軸、日研で育みませんか？

皆さんは自分が大切にしている価値軸について考えたことがありますか。なにを価値軸とするかは人それぞれ。生涯を通して変わらない場合もあれば、ライフステージや環境、時代の変化によって変わっていくこともあります。

第59回日本理学療法学会学術研修大会（以下、第59回日研）では、以下の三つの価値軸を設定して、

「理学療法士としての価値軸を育む」 企画をご用意しました。

日研に参加をすることであなた自身や組織と向き合い、理学療法士としての価値軸を育んでみませんか？



誰かのために役立ちたい、
関わりたいという

「社会価値」



自分の志向や価値観、
能力などを活かしたいという

「個性価値」



日々の生活の中で大切なことを
起点にしたいという

「生活価値」

第59回日本理学療法学会学術研修大会 in 東京
技能がつなく未来への進歩 ～理学療法士としての価値軸を育む～

日時 対面：2024年6月29日（土）～30日（日）
2019年徳島ぶりの対面開催！
オンデマンド配信：2024年7月15日（月）～8月11日（日）
会場 東京国際フォーラム／オンライン
参加費 8,000円（1日のみ）／12,000円（2日間）※対面・オンデマンドは同額

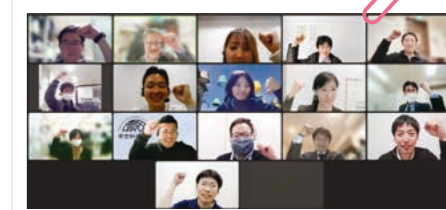
価値軸に関する企画以外にも、グループワークや症例検討、ハンズオンセミナーなど、多様なプログラムが企画されています！大会ホームページをご覧ください。

<https://smartconf.jp/content/nichiken59>



準備委員会の
皆さん

教えて！



多様なプログラムの中から準備委員会がピックアップしてくわしくご紹介します。

Pick Up

1

重複障害について再考する - 疾患別リハ*から重複障害へ -

*リハビリテーション

リハビリテーション料は「疾患別」で算定され、従来の理学療法では疾患特異的に計画され実行されてきました。しかし、実際の臨床では並存疾患によって計画通りに進まないことも多いのではないのでしょうか。早期離床を進めたくても、「糖尿病による自律神経障害で血圧が下がる」、「血圧を高く維持すると心不全が悪化する」、「運動療法を進めたいのに低栄養で耐えられない」、「凝固異常により血栓があり制限される」など並存疾患への配慮は常に必要です。日本は入院患者の75%以上を高齢者が占めており、単一疾患だけではなく複数の並存疾患による「重複障害」への対応が必須です。本セッションでは内部障害、運動器、脳卒中を主軸とした重複障害に対するアプローチの実際をお伝えします。

Pick Up

2

対面のみ！

グループワーク（神経理学療法）神経難病の当事者（ALS / SCD / PD）を交えた「実践的な学びの場」を実施！

近年、医療の高度化・複雑化に伴い、神経難病患者に対する理学療法およびリハビリテーションを実践する場面が増えてきています。ただし、その多くは希少疾患のため症例数が少なく、手探り状態での対応を余儀なくされていることが想定されます。今回、当事者にご協力いただき、実践的な学びの場として疾患ごとに三つグループを作成し、並行してワークを行うセッションを企画しました。

【内容】

グループ1

人工呼吸器を使用している筋萎縮性側索硬化症（ALS）の患者さんと学ぶ「適切な評価と対応の検討」

グループ2

ご協力いただき撮影した脊髄小脳変性症（SCD）の患者さんの動画で学ぶ「小脳性運動失調の標準的な評価と介入」

グループ3

歩行可能なパーキンソン病（PD）の患者さんと学ぶ「パーキンソン病に対する理学療法のための臨床推論」

当日は各疾患における疾患特異的な評価の確認や本人のニーズに応じた理学療法評価およびプログラムを一緒に検討したいと思います。

Pick Up

3

理学療法士×〇〇〇〇=∞

理学療法士と他職種や他団体がコラボすることで生まれる可能性

リハビリテーションの効果を向上させるためには多職種連携が必須であり、理学療法士のみでの介入で解決できることはほぼないものと思います。近年は、他職種や他団体とともに情報を共有し、理学療法士が責任を果たすべき職域を示すことで質を向上させているのではないのでしょうか。従来、神経や運動器、内部障害などの領域で多くの理学療法士が専門性を発揮し、実践してきたように、この先もさらに他の領域でも専門性を活かすことが期待されます。今回のシンポジウムでは、これまで理学療法士の協働が希少であった他の職種とコラボレーションをすることで生まれる可能性について紹介します。歯科医師（顎関節症・嚥下障害）、泌尿器科医師（骨盤底筋）、薬剤師との協働から得られる未知の可能性について、具体的な活動内容を含めて紹介します。

次の4～5ページでスケジュールをご確認ください

Time Schedule

タイムスケジュール

あなたは、
どんな参加方法がピッタリ？

生涯学習制度の 履修付与について

履修付与の条件は、第59回日研の
ホームページをご覧ください。

	対面	オンデマンド
認定理学療法士 (新規)	○	○
認定・専門 理学療法士更新	○	○
登録 理学療法士更新	○	○

認定理学療法士(新規)は、2日間で計12時間の研修受講が必要です。

対面

オンデマンド視聴の
追加申込は不要です

対面参加者は日研開催後、オンデマンド配信を1ヶ月程度、視聴することができます。なお、オンデマンド配信は、7月15日(月)～8月11日(日)です。ぜひ、事後学習に役立ててください。ただし、後日のオンデマンド視聴は、履修付与対象外のためご注意ください。

1日目 6月29日(土)

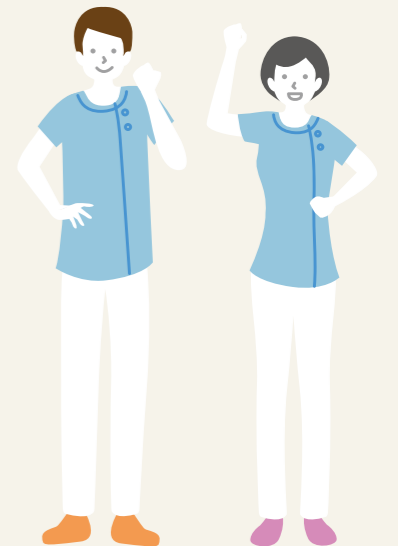
会場	研修 1 ▶ 9:00 ~ 12:00	研修 2 ▶ 13:45 ~ 16:45
B7-1 会場	運動器理学療法 ①人工膝関節全置換術後の理学療法 ②人工股関節全置換術後の理学療法	神経理学療法 ①脳卒中後の高次脳機能障害のエビデンス ②脳卒中後の高次脳機能障害と身体機能との関連
B7-2 会場	ヒトをみる・体を探る・動きを探る 一症例に対する専門分野ごとの視点一	内部障害理学療法 ①呼吸筋トレーニング ②心不全に対する標準的な理学療法
B5-1 会場	内部障害の基礎 急性期専従の理学療法士としての働き方と価値	自身で行うメンタルヘルス セルフケアとラインケアを知ろう一 シンポジウム「未来に向けた理学療法士の価値軸」
B5-2 会場	こどもの健康支援 理学療法士が創造する労働参加年齢への健康増進	理学療法士×○○○○=∞ 一理学療法士と他職種や他団体がコラボすることで生まれる可能性一 【歯科医師×理学療法士】 ①嚥下障害 ②顎関節症
D7 会場	生活環境支援理学療法 ①介護予防・フレイル対策 前編 ②介護予防・フレイル対策 後編	教育管理理学療法 ①急性期リハ*における中長期計画 Vision2040 ②回復期・生活期リハ*における中長期計画 Vision2040
D5 会場	基礎理学療法 ①ヒトを対象とした基礎研究 ②実験動物を対象とした基礎研究	グループワークおよび症例検討(運動器理学療法) ①前十字靭帯損傷術後の理学療法 ②肩関節疾患の理学療法 ③腰痛の理学療法
D1 会場	物理療法理学療法 ①拡散型ショックウェーブの基礎と臨床応用 ②電気刺激・磁気刺激の基礎と臨床応用	グループワークおよび症例検討(物理療法) ①痙攣を呈する症例に対する拡散型ショックウェーブや電気刺激療法の臨床活用 一事例検討一 ②ポケットを保有する仙骨部褥瘡患者に対する電気刺激療法の臨床活用 ③脳卒中後の歩行機能改善のための電気・磁気刺激の臨床活用
G 510	47都道府県士会における理学療法士から地域社会への提言・活動報告 ①地域貢献活動(理学療法士派遣) ②地域貢献活動(地域包括ケア①)	グループワークおよび症例検討(基礎理学療法) ①ヒトを対象に運動障害のメカニズム/理学療法の効果について調べる実験研究 ②病態モデル動物を用いて運動障害のメカニズム/理学療法の効果について調べる実験研究

2日目 6月30日(日)

対面参加による履修付与は180分単位での登録受付です。
黄色は対面実施のみのプログラムです。

会場	研修 3 ▶ 9:00 ~ 12:00	研修 4 ▶ 13:00 ~ 16:00
B7-1 会場	重複障害について再考する 一疾患別リハ*から重複障害へ一 ①内部障害 ②運動器 ③神経	公開講座 障害者野球に関するシンポジウム
B7-2 会場	運動器理学療法の基礎 神経理学療法の基礎	これからの地域・まちづくりにおいて理学療法士は何かできるか 行政との連携 一地域包括ケアシステムの進化一
B5-1 会場	理学療法士の価値軸を考える 「組織と個人の価値軸」	看取りの考え方 一理学療法士としての考え方一 医療機器研究開発・医工連携 一理学療法士と医療機器開発の実際一
B5-2 会場	公衆衛生と理学療法 医療現場における自費リハビリテーションへの取り組み	吸引講習ハンズオンセミナー
D7 会場	地域理学療法の基礎 一介護予防事業における理学療法士の役割一	理学療法士×○○○○=∞ 理学療法士と他職種や他団体がコラボすることで生まれる可能性 ①【理学療法士×薬剤師】 ②【理学療法士×泌尿器科医】
D5 会場	グループワークおよび症例検討(内部障害理学療法) ①呼吸器疾患の理学療法 ②循環器疾患の理学療法	グループワークおよび症例検討(神経理学療法) 神経難病の当事者(PD/SCD/ALS)を交えた「実践的な学びの場」を実施!! ①ALS患者と学ぶ適切な評価と対応の検討 ②小脳性運動失調の標準的な評価と介入 ③パーキンソン病に対する理学療法の臨床推論
D1 会場	グループワークおよび症例検討(教育管理理学療法) ①地域分析(マクロ) Vision2040 ②部門経営(ミクロ) Vision2040	グループワークおよび症例検討(生活支援理学療法) 介護予防現場での理学療法士の関わり方
G 510		47都道府県士会における理学療法士から地域社会への提言・活動報告 防災活動 学生企画 地域貢献活動(地域包括ケア②)

多様な
価値軸の視点を
広げるための
企画が満載です!



お申込みはこちら!

<https://smartconf.jp/content/nichiken59/registration>



申込締切

現金振込 | クレジットカード払い
5月19日(日) | 6月9日(日)

※支払い方法は、協会マイページにご登録済の決済方法に準じます。

*リハビリテーション

※プログラムは変更される場合があります。最新版は第59回日研ホームページをご確認ください。



理学療法士としての 多様な価値軸

日本は今、新型コロナウイルス感染症がもたらしたさまざまな経験により、新たな価値観の誕生や常識の変化という大きな潮流の中にあります。理学療法士も同様に、今までの価値軸を見つめ直し、これからも「変えないこと」とこれから「変えること」を精査する時代がきました。

第59回日本理学療法学会学術研修大会(以下、第59回日研)は、「技能がつなく未来への進歩」のテーマとともに「理学療法士としての価値軸」をサブテーマに企画されました。今回は、大会長である豊田輝さんに常務理事の白石浩が第59回日研のキーワードである「価値軸」や大会のプログラムについてお話をうかがいました。

「理学療法士としての価値軸を育む」に込めた想い

白石：本日はお時間をいただきありがとうございます。第59回日研が6月に東京で開催されます。そのテーマである「技能がつなく未来への進歩～理学療法士としての価値軸を育む～」を決めた背景を教えてください。

豊田：まずは、第59回日研を東京都理学療法士協会に担当させていただき、ありがとうございます。東京都理学療法士協会が担当させていただくことが決定し、本大会テーマを熟考していた当時、新型コロナ

ウイルス感染症(以下、新型コロナ)の発生とパンデミック(世界的大流行)により、「普遍的な価値」や「新しい価値の創造」が急激に進んでいるように感じました。それまでも色々な要素の中で社会のパラダイムシフトは起きていましたが、新型コロナの影響により社会が急激に変化する中で、この変化に伴い理学療法士の価値軸も変えていかないと、今後は生き残ってはいけな

と、新しく作っていかねばいけなものの両方が大切だと思い、今までの価値軸を見直すという意味を込めて、サブテーマに「価値軸を育む」という文言を入れました。

白石：新型コロナの影響で社会や私達の世界も不安定になり、将来を見通せない時代になったと思います。肌感覚ではありますが、会員や学生の皆さんには将来に対する漠然とした不安が広がっているようです。その中で、「価値軸を育む」というサブテーマはタイムリーだと思っています。

多様な価値軸の視点を広げるために 一 個性価値、社会価値、生活価値 一

白石：第59回日研では、三つの価値軸を大きく掲げられていますが、掘り下げてお話ししていただけますでしょうか。

豊田：三つの価値軸として、自分の志向

や価値観、能力などを活かしたいという「個性価値」、社会貢献などの「社会価値」、本人が生活していく上で家族を大事にしたなどの「生活価値」を設けました。今ま

での日研でも、専門性を高めるための個性価値に関するプログラムは実施されており、今回も新規認定理学療法士取得のためのプログラムを企画しています。また、社会



PROFILE

帝京科学大学 医療科学部 東京理学療法学科 准教授
(公社)東京都理学療法士協会 副会長、事務局長

豊田 輝さん

Toyota Akira

理学療法士、博士(保健医療学)。専門理学療法士(支援工理学療法・理学療法教育・予防理学療法・地域理学療法)。2010年から帝京科学大学に勤務し、2015年から現職。第59回日本理学療法学会学術研修大会 大会長。

PROFILE

公益社団法人日本理学療法士協会 常務理事(教育推進課担当)

白石 浩

Shiraishi Hiroshi

理学療法士、博士(医学)、専門理学療法士(神経学療法)。2019年から現職。

価値のプログラムでは、都道府県理学療法士会の活動のほか、診療報酬・介護報酬制度下以外に理学療法士の専門性を活かして社会に貢献できるものを掘り起こそうと考え、先駆的に取り組んでいる方の事例を共有したいと思っています。生活価値では、「給与が上がらない」、「社会的地位が不安定」、「将来が見通せない」、「共働きによる家庭との両立」などの課題がある中で、仕事と生活との調和やワークライフバランスという、理学療法士以前の根幹の部分成り立たないといけないと思

白石：豊田大会長が話された通り、従来の日研は、スキルという個性価値を主体としてきたので、多様な価値軸について伺えるのは楽しみです。一方で、多様な価値を求めていく時に、自分自身の価値軸やバランス感覚がわからないという方もいます。また、成長に伴って価値軸が変化することもあると思います。今、自分の価値軸に悩んでいる方や、何かもやもやしている方へのアドバイスはありますか。

豊田：人によっては自分のやりたいことがあっても、やり始める前にできない理由のほうが多くなって、あきらめてしまうことがあると思いますが、私はまずは少しでも行動することが大切だと感じています。第59回日研への参加により、多様な価値軸に触れることで、これまで歩み出せなかったところへの小さな一歩を踏み出す機会にしてい

て考えたところ、もやもやしているところがありました。もしかすると明日聞かれたら違う回答になるかもしれませんが(笑)、以前は総合病院で、今は教員として養成校でいろいろな仕事をさせていただき、また都道府県理学療法士会の活動においてもたくさんの人に会う機会をいただきました。その中で共通する私の価値軸は「感謝する」ということです。私は、あらゆる機会において人間関係の構築が基盤にありますが、自分の思いを人に伝えることよりも、人に感謝することの重要性を年々強く感じています。

白石：豊田大会長のようにベテランの理学療法士でも価値軸について悩んでいると聞いて読者の皆さんは、安心するのではないのでしょうか(笑)。将来に対する不安を抱くのはごく自然なことですね。私も思い描いたコースから大きく外れるなど、思った通りに行かなかったことを数多く経験しました。そういった経験を通して、いろいろな人と出会い、ネットワークができて、それにより自分の価値軸が変化し、より充実したものに



なっただと思います。豊田大会長は「感謝する」という価値軸を大切にされているとのことですが、そのように考えたエピソードはありますか？

豊田：私が新入職した当時の所属施設は、理学療法士6人の職場に5年ぶりの新人ということで、先輩に何をやっても追いつけず、その中で早く患者さんに「ありがとう

と言われたという思いで、がむしゃらに働いていました。終業後の都道府県理学療法士会の事務局での活動を通じて同世代の仲間ができ、同じ悩みを持っていることを知ることができたのは良かったですね。また、他の施設から見た、自分の職場の良いところも知ることができ、知識も技術も十分に備わっていないのにその一員であることを誇

らしく思った記憶があります。そこから、人間関係が広がり、お願いをされる側からする側になった時に、感謝をすることの大切さを非常に強く感じました。現在は、教員として学生の教育に従事していますが、学生にも「ありがとう」と伝えることの大切さを日々感じています。

からの地域・まちづくりにおいて理学療法士は何ができるかについて提言をいただく予定です。

白石：理学療法士は、すでに介護予防教室などで活躍していますが、まちづくりなどがこれからの活躍の場になるかもしれませんね。地域の中で課題を見つけて解決するなど、これからは地域のマネジメントが必要なスキルの一つと感じます。

豊田：ぜひそのような視点で地域社会を考える機会としたいですね。

白石：価値軸を育む組織マネジメントに関する企画も用意されています。理学療法士の平均年齢が35歳前後で、30代後半や40代で中堅となり、管理職をしている方も多く、抱えている課題もさまざまだと思います。一方で、将来、管理職にはなりたくないという声も聞くことがあります。そうした点では、管理職になって価値を見出している方の話を聞いてみたいですね。組織の価値として行すべきことと、個人の価値として

行いたいこと、そして、管理している職員それぞれの多様な価値を尊重するという組織と個人のマッチングをどのように考えているかなど、ぜひ伺いたいです。

豊田：最近では、ワークライフバランスからワークインライフという言葉が出てきています。人生はバランスをとるものではなく、人生の中の一つが仕事という考え方です。企画では、お話も含めてこれからご自身の人生設計のヒントが得られるのではないかと思います。

白石：多くの理学療法士の管理者が幅広い年代のマネジメントで悩んでいると思いますので、とても参考になるのではないのでしょうか。

豊田：理学療法士は人を相手にする仕事です。対象者が多種多様な価値軸を持っているため、それに合わせ、人間関係の構築ができるようなコミュニケーションが必要だと思っています。そのため、第59回日研では、理学療法士としてその専門性を十

分に発揮され社会的にも信頼を得ておられる方に講師をお願いしています。また、理学療法士×○○○○=∞のような他職種とのコラボレーションにおいて理学療法士の専門性を高めていらっしゃる方にも講師をお願いしていますので、各職場における他職種からの信頼を得るための糸口も聞けるのではないかと思います。その他、メンタルヘルスのプログラムも準備しています。理学療法士は「人のために」という気持ちを持っている方が多いですが、自分が疎かになってしまっただけで、元も子もないと思います。自身のメンタルヘルスをどのようにとらえていくのか、自分の人生を自分で決めて、自分で歩いていくにあたり、自分の強みを認識する機会にさせていただければと考えています。

白石：第59回日研では、多くの貴重なお話が聞けそうですね。

日研でのプログラム ー未来への進歩に向かってー

白石：最近、「キャリアデザイン」という言葉をよく耳にします。山登りのように一步一步、学校を卒業して国家試験に合格し、スキルを磨き、職位が上がり、認定資格を取得するというイメージがありますが、その枠組みから外れると悩む人もいます。キャリアデザインのモデルがもう少し多様になって良いのではないのでしょうか。

豊田：一つのデザインやラダー、ロールモデルしか提示できていないと、今の多様性の中では、それとは違う自分に不安になるということは大いにあると思います。第59回日研には、理学療法士という資格を持ちながらも、一つのラダーではない、いろいろなロールモデルの方が登壇します。多様な方がいることが理学療法士の強みになったら良いと思っています。認定・専門理学療法士として、一つの分野を突き詰めるのも一つの形ですし、それ以外の何かで理学療法士であるということに対して胸を張るのも良いと思います。

白石：私達は、あるべき姿を作りすぎているかもしれないですね。

豊田：ダーウィンの進化論でも「最も強い

者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるでもない。唯一生き残れることができるのは、変化できる者である」という言葉があります。社会の中で変化することをマイナスに考えるのではなく、そこから令和モデルになっていかなければいけないですね。その先に、昔のモデルに戻るなどの変化もあると思いますが、挑戦をすることは、前に進むことであり、それは不安を少なくする要素になると思います。その場に留まれば、昨日までの繰り返しであり、これまでの経験のみでは対応できないことも多く、それは不安要素が増えることがあっても減ることにはならないのではないのでしょうか。

白石：分野によって価値軸は異なると思いますが、第59回日研ではどのようなプログラムを用意されているのでしょうか。

豊田：まず、「未来に向けた理学療法士の価値軸」というシンポジウムを企画しています。日本理学療法士協会の斉藤会長、日本理学療法学会連合の藤澤理事長、日本理学療法士連盟の山根会長にご登壇いただく予定です。各組織の長として重んじている価値軸をご紹介いただくと

に個人の価値軸はどのように形成され、どのような価値軸を持たれているのか、理学療法士に求められる価値軸は何かなどを伺いたいと考えています。組織のトップの方々も迷いながら、環境変化に対応しながら前に進んでいるという姿を伺えるのではないかと考えています。二つ目に、地域包括ケアシステムの進化や地域づくり、まちづくりに理学療法士がどう関与できるかについてのプログラムを企画しました。社会の中で、理学療法士が目の前の対象者のためにその専門性を発揮し、成果を上げることが必要不可欠ですが、ステークホルダーを地域住民レベルに拡大して理学療法士から見た社会課題の解決という視点も必要と考えています。その一つとして、理学療法士がもっとまちづくりに関与すれば、我々の専門性を活かせる新しい場所が見えるのではないかと考えています。国土交通省からは「健康・医療・福祉のまちづくりの手引き」、厚生労働省からは「これからの地域づくり戦略」のご紹介をいただき、その後のシンポジウムでは参議院議員で理学療法士の田中昌史先生を交えた三者でこれ

読者へのメッセージ

白石：年代によって、仕事の葛藤や一歩踏み出すべきなのかと悩む時があると思います。私は、そうした葛藤の中で、「やりたいこと」を残したまま、ただ引きずるのではなく「断捨離」をして整理することが大事だと考えています。節目節目で自分としっかり向き合い、振り返ることが大事だと感じていますので、ぜひ第59回の日研に参加し、そのきっかけにしてほしいです。

豊田：変化する社会情勢の中で理学療法士としての自分の人生をより良いものとする

ために、うまくいかなかったことを振り返ることや、うまくいかないことを想定した準備をするのは大事だと思います。また、理学療法士は多様な価値軸の集まりの中で多職種との協働が必要となります。この中で理学療法士の専門性を磨くためには、多様な価値軸に触れ合う機会を常に持つことも大事だと思います。この第59回日研が、知らない価値軸や多様な価値軸に触れる機会、人間関係の構築の一助となることを期待しています。

白石：第59回日研は、自分の価値軸と今一度向き合う良いチャンスになると思いますので、多くの方にご参加いただきたいです。本日は、お忙しい中ありがとうございました。



プログラム講師に
訊いてみた！

わたしの 価値軸

大切にしている価値

“続ける”

介護予防・フレイル対策



筑波大学 人間系 / 教授

山田 実さん

Yamada Minoru

“続ける”、とても大切で、とても難しいこと。介護予防には、運動、栄養、社会参加という3要素が重要と言われており、実際、これらによって要介護の発生を抑制することが示されています。ですが、これはあくまで実施していればという条件付き。何とか1年間実施できたとしても中止すれば効果は減弱・消失することになります。つまり、介護予防には“続ける”ことが求められます。

私が担当する「介護予防・フレイル対策」では、“続ける”をキーワードに、介護予防に向き合う際の考え方について概説し

ます。とはいえ、私自身、介護予防という大きな課題と向き合い“続けている”途中。現時点で明確な解答は持ち合わせていません。考えのもととなる素材を共有しますので、これからの価値軸の育成につなげていただくと幸いです。

第59回日研では、ご自身の新たな価値軸の創造につながるさまざまなプログラムが準備されています。さまざまな情報に触れ、考えることで、オリジナルな価値軸を育ててください。6月、東京でお会いできることを楽しみにしています。

大切にしている価値

“好奇心、創造性”

実験動物を対象とした基礎研究



杏林大学 保健学部
リハビリテーション学科 教授

村松 憲さん

Muramatsu Ken

はじめまして、第59回日研で「実験動物を対象とした基礎研究」を担当する杏林大学の村松憲と申します。私は運動障害や運動障害に対する理学療法の効果について疾患モデル動物を対象にした基礎研究を行っています。多くの理学療法士にとって動物実験は馴染みの薄いものだと思いますが、臨床研究では倫理的・技術的に難しい問題について細胞・分子レベルで迫ることができ大変有効な手段です。また、研究者の自由な発想によって行われる基礎研究の成果はまったく新しい視点から理学療法課題を解決した

り、新しい価値軸を提供したりできる可能性があります。そのため、私は何よりも自分の好奇心を一番の価値軸として大切にしています。

第59回日研では、実験動物を対象とした基礎研究について、その手法や特徴、その限界などについて紹介させていただきます。臨床で理学療法士として活躍される方々にとっても、動物実験から得られた新知見は、日々の理学療法に新たな視点と創造性を与えるものであると確信しています。ぜひ奮ってご参加ください。

大切にしている価値

“探求、働くを楽しむ、自分らしさ”

理学療法士のメンタルヘルス

—セルフケアとラインケアを知ろう—



日本精神・心理領域理学療法研究会 理事長

上蘭 紗映さん

Uezono Sae

今回の大会で「理学療法士のメンタルヘルス —セルフケアとラインケアを知ろう—」というテーマを担当させていただくことになりました。私は長く精神科の現場で理学療法士（以下、PT）として働いてきました。その中で、国家資格キャリアコンサルタントやEAP（社員支援プログラム）メンタルヘルスカウンセラー資格を取得するなど、PTとしてだけでなく、一人の社会人として人のメンタルヘルスについて学んできました。その中で、人が幸せ、健康であることの一つの要素として、自分らしさがあり、働くことが楽しいという環境が肝要であると思に至るようになりまし

た。SNSでは、同世代、あるいは同じ職種の影響インフルエンサーのきらびやかな活躍や、PTの未来への絶望感を抱かせるような情報も多くあり、心穏やかではない方もいらっしゃるのではないかと思います。しかし、そこに表現されているのは、あなたの幸せなのではないでしょうか。今回は、対人援助職である私達PT自身が幸せに、そして楽しく働けるということはどういうことか、それにはどういう視点が大事なのか、ということについて皆さんと有益な時間が持てればと思っています。ぜひご参加いただき、会場に足を運んでいただければと思います。

【質問項目】

- 1 第59回日研でご担当されるプログラムの内容
- 2 大切にしている価値軸と背景
- 3 第59回日研に参加しようと思っている方へのアドバイス

大切にしている価値

“人との出会いを大切に”

組織と個人の価値軸



日本赤十字社愛知医療センター
名古屋第二病院 リハビリテーション科
代表課長 内部障害理学療法課長

永田 英貴さん

Nagata Hideki

歴史ある日本理学療法学会学術研修大会で講演の機会をいただき、ありがとうございます。今回、私は「組織と個人の価値軸」に関するお話をさせていただく予定です。

個人の価値軸は、その個人をとりまく環境や経験などから影響を受けます。私は理学療法士免許取得後、病院で急性期、回復期、維持期を経験し、その後は修士課程（循環器リハビリテーション）に進学しました。卒業後は現在の職場に身を置きながら、博士課程でNCDs（非感染症疾患）分野の疫学を学びました。その後、ご縁があり日本理学療法管理学会の評議員を拝命してい

ます。私の価値軸はこのような経験から影響を受けています。また、これまでに会った方々からも大きな影響を受けています。

多くの方は組織の一員として働いていると思います。組織では、個人の価値軸のみならず組織の価値軸も考えて行動することが必要となります。この“考えて行動すること”は、その組織における自身の役割からも影響を受けます。どのように価値軸を育めばいいのか、私自身は答えを持ち合わせておりません。第59回日研に参加される皆さまと一緒に、考える機会になればと思っています。

Top Message

会長 齊藤 秀之



理学療法士のコミュニティ 一所属意識を高める場として世代を超えて

日本理学療法士協会は、日本で唯一の理学療法士個人を会員とする公益社団法人格を有する職能団体であり、2026年に設立60年を迎えます。

さて、多くの理学療法士は病院、施設、養成校、自治体、あるいは株式会社に代表される営利法人、またNPOなどに代表される非営利法人などの組織に勤務あるいは所属し、生計を立てていると思います。個人で活躍している方を除けば、その組織は単一の職種で構成されることは少ないと想像します。会員の皆さまは、このような組織に属していると「自分が組織の一員である」「組織の皆が仲間である」という帰属意識や仲間意識が無意識のうちに醸成され、自然に組織に対する愛着が湧いてきているに違いありません。雇用する側の経営者は、安定した収入を提供し、福利厚生制度などを充実させることで職員に対し、安心感や幸福感を与え、組織に属している職員の帰属意識が高まるような組織運営を心掛けています。

一方、日本理学療法士協会という組織、職能団体の会員であるということは、会社に勤務していることで醸成される帰属意識と異なると思うことが妥当だと思います。帰属意識と異なる意識、つまり会員としてのその意識は、所属意識と置き換えて整理するとよいと考えています。おそらく「あるチームに所属している」という感覚としての「仲間意識」「帰属意識」までの愛着というよりも、「集団あるいはコミュニティの中の一員である」という自覚、拠り所に近いものと推察します。そして、そのコミュニティは、単に人が集まっているという集団ではなく、経験や世代を超えて、繋がりがあって何かを持つ集団であり、その何かとは理学療法士という価値観と考えます。この理学療法士という価値観を共有するプロフェッショナル集団の我々が所属するのが、日本理学療法士協会であり、みんなでその価値を高めていくことが重要になっていくと思います。

第59回日本理学療法学会学術研修大会がその場となることを期待します。



Come join us! World Physiotherapy Congress 2025

Vol. 1

【大会概要】
日時：2025年5月29日（木）～31日（土）
会場：東京国際フォーラム（東京都）
※第60回日本理学療法学会学術研修大会（2025年5月31日（土）～6月1日（日））と連続開催

公式ホームページで概要を確認しよう!

先月号でご紹介した、世界理学療法連盟学会主催のWorld Physiotherapy Congress（世界理学療法連盟学会）2025について、公式ホームページでの情報発信がはじまっています。公式サイトには、学術発表のプログラムはもちろん、セッションの種類、登録の際のガイドラインなどが掲載されています。過去の抄録も確認することができますので、参加または発表してみようかなと考えている方や抄録の書き方に悩んでいる方に、とても参考になるページになっています！英語が苦手でも心配ありません。専用サイトには、（正確ではありませんが）言語変換機能がついていますので、ぜひサイトを覗いてみてください。

World Physiotherapy Congress 2025の進捗状況を本会のサイトからも確認できます。ぜひご覧ください。
理学療法士の方向けトップページ▶国際事業▶
World Physiotherapy Congress 2025
https://www.japanpt.or.jp/pt/international/world_physiotherapy_congress_2025/



仕事を守る、生活を守る 理学療法士と 政治活動

国政や地方議会で活躍する理学療法士や、連盟を含めいろいろな形で政治活動を行っている理学療法士に登場いただき、業界をとりまくさまざまな課題やその解決に向けた取り組みを紹介いたします。

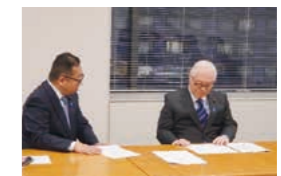
本誌 vol.346（2023年12月号）では、課題解決のためには、解決をどれだけ多くの国民が望んでいるのかを示すこと、解決に賛同する声（議員）を増やすこと、この二つが必要であると説明しました。令和6（2024）年度の医療・介護・障害福祉の報酬改定（いわゆるトリプル改定）の攻防が昨年末に繰り広げられました。当初マイナス改定と

言われていた改定率（本体分）をプラスにすることができ、プラス分のうち、0.61%が賃上げ財源として確保されることとなりました。このような結果に至ったのは、実は冒頭にご説明したことそのものでした。自民党内に公式な組織として設置されている「リハビリテーションに関する小委員会」、自民党議員の有志で構成されている「リハビリテーションを考える議員連盟」で、日本理学療法士協会をはじめとするリハビリテーション専門職の3協会と日本理学療法士連盟をはじめとするリハビリテーション2連盟が、全国のリハビリテーション専門職が抱える課題や想いを出席いただいた多数の国会議員に説明し、訴えました。その内容に多くの議員が賛同してくださり、そのことが鈴木俊一財務大臣・武見敬三厚生労働大臣他に「リハビリテーション専

門職の賃上げをすべき」との要望申し入れすることに繋がり、結果として先にご説明したように賃上げ財源確保に至りました。正しく行動することで世の中は変えられます。皆で協力して、しっかり声を上げてまいりましょう。



鈴木俊一財務大臣への要望書の手交

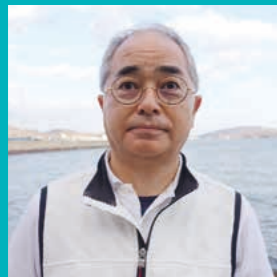


武見敬三厚生労働大臣への要望書を説明

田中 昌史

1965年北海道札幌市生まれ。1987年理学療法士免許取得。2023年1月、参議院議員として繰り上げ当選。田中まさし公式サイト (<https://tanaka-masashi.com/>)





森安 真(もりやす まこと)

デイサービスうらら

Makoto Moriyasu
1957年岡山県岡山市生まれ。
1982年川崎リハビリテーション
学院卒業。同年4月、川崎病院(現
川崎医科大学総合医療センター)
に就職。2018年3月定年退職。
同年4月、現所属先に就職。
2019年7月膀胱がん発覚。8月
抗がん剤治療。12月膀胱全摘術
実施。2020年3月職場復帰。9
月低カリウム血症にて心肺停止
後蘇生。2023年6月、水腎症に
て腎臓造設。現在は復職し、元
気に勤務をしている。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員の皆さまへメッセージを募集しております。
お問い合わせ先: JPTA NEWS 担当 news@japanpt.or.jp

生涯現役

元気でいること

養成校卒業後の就職は医科大学の附属病院でしたが、まだ理学療法士は3人で、病院の片隅で細々と働いていました。次第に知識・技術・社会的認知度が高まり、資材・スペースも拡大し、スタッフも50人を超えました。そんな時代の中で悪戦苦闘しながら、家族や多くの人に助けられながら何とか定年まで元気に働くことができました。定年退職を機に以前から念願だった地域医療に携わりたく、個人病院併設のデイサービスに再就職しました。一人職場ですが、瀬戸内の美しい海山に囲まれ、花鳥風月を楽しみながら、外来リハビリテーションとデイサービスで元気な高齢者と一緒に毎日頭と身体を活性化し、楽しく仕事をして、徐々に軌道に乗っていました。しかし突然、膀胱がんになり膀胱・前立腺・尿路全摘術を受けました。ちょっと不自由にはなりましたが、元気に職場復帰できました。しかし、ほぼ同時に新型コロナウイルスが流行し、外来リハビリテ

ションは閉鎖、デイサービスもさまざまな制約を受けました。そうこうしているうちに、私自身が心肺停止になったり、水腎症になったりと周りに心配や迷惑ばかりかけています。しかし、経験しないとわからないこともたくさんあります。貴重な経験をさせていただきました。年齢を重ねると健康でいることは難しくなりますが、元気でいることはできます。生涯現役でいるにはさまざまな要素があると思います。理学療法士を続けることだけが現役ではありませんが、人生を懸けるに値する職業だと思えます。最近では、若い理学療法士が増えています。良い職を得るのは大変だと思いますが、高齢で職を得るのはもっと大変です。理学療法士の職の幅を広げるのも我々の重要な役割だと思っています。幸い、妻も理学療法士で、十分な理解と多大な援助のおかげで元気でいられます。これからも家族や仲間にも助けられながら元気に頑張りたいと思います。感謝。

コツコツ学ぼう!

登録理学療法士更新ポイント問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得要件の一つに、JPTA NEWSの問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます!
登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRを会員専用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください!



カリキュラムコード 157 各ライフステージの人間理解 解答期限は6月19日まで

マイページのセミナー検索画面からも申込可能(セミナー番号: 122596)、申込期限は「6月18日」です。

※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/
コツコツ学ぼう! 登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、本会ホームページ FAQからお願いいたします。

INFORMATION

会員数 139,556名 2024年3月31日現在
*休会者含む

ご登録内容に変更が生じた場合は、日本理学療法士協会(以下、本会)ホームページ内の【マイページ】へログインし、Web申請にて各種手続きをお願いいたします。トラブル防止のため、電話・メール・FAXによる各種申請は受け付けておりません。
※Web環境がない場合、各種手続きについては本会事務局(TEL: 03-6804-1421)へお問い合わせください。

(参考URL)
https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/member/



異動手続きについて

所属施設・自宅住所の変更等の会員登録内容の変更は、本会ホームページの手続案内をご確認のうえ、マイページからお手続きください。

※施設情報の変更は、施設会員代表者または施設会員代表者代理に割り当てられた方が行ってください(【マイページ】→【登録内容の変更・確認】→【施設情報管理】)。
※海外会員に登録される場合は、会費の支払い方法について確認させていただきますので事前に本会事務局へご連絡ください。

理学療法士の方向けサイト ▶ 協会からのお知らせ ▶ 各種手続き ▶

勤務先・自宅住所・氏名等の変更

https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/member/01/



マイページ ▶ 登録内容の変更 ▶ 本人情報の確認・更新

https://mypage.japanpt.or.jp/mypage/login



会費割引制度について

本会では、「育児休業」・「シニア」・「海外会員」について年会費の割引制度を設けております。本会ホームページにて申請条件をご確認のうえ、対象となる方はマイページからお手続きください。

※申請された翌年度の年会費に割引が適用されます。(～2/20まで)

理学療法士の方向けサイト ▶

協会からのお知らせ ▶ 各種手続き ▶

年会費割引制度申請

https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/member/06/



休会・退会・復会の手続きについて

会員区分の変更は、本会ホームページにて各種手続きをご確認のうえ、マイページからお手続きください。

※休会を継続する場合、1年ごとの申請が必要です。申請受付期間(1月1日～3月31日)にご申請ください。手続きがない場合は規定により退会となります。
※退会後、生涯学習履歴・取得資格は無効となります。また、納入済みの当年度年会費はご返金いたしかねます。

休会中・退会後は以下の権利が停止となります。

- 各種研修会・学会等への会員価格での参加(非会員理学療法士と同様の対応となります)
■理学療法士賠償責任保険への加入(全員加入・任意加入)
■各種学会への無料での演題登録
■福利厚生サービス「クラブオフ」の利用など
■会報誌「JPTA NEWS」の発送
■役員候補者選挙および代議員選挙の選挙権、被選挙権

理学療法士の方向けサイト ▶ 協会からのお知らせ ▶ 各種手続き ▶

https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/member/



マイページ ▶ 登録内容の変更・確認 ▶ 本人情報の確認・更新

https://mypage.japanpt.or.jp/mypage/login



協会運営に関するご案内

●2024年3月2日(土)に第9回理事会、第5回理事懇談会が開催されました。

●2024年4月6日(土)に2024年度の第1回理事会、第1回理事懇談会、同4月7日(日)には都道府県理学療法士会の会長が集う組織運営協議会が開催されました。

理事会の抄録は会員限定コンテンツに掲載されています。



会員限定コンテンツ

協会運営・資料一覧

総会・理事会等資料

https://www.japanpt.or.jp/privilege/management/minutes/#title02

クラブオフ 今回のおすすめ!

選んだプレゼントが全部もらえる♪
「お祝い制度」特集♪

(例) マタニティお祝い制度
AOKI ORIHICA
コンビ公式オンラインクーポン
1,500円分 おむつポーチなど

ご利用の際には、「日本理学療法士協会 クラブオフ」へ登録・ログインください

◎その他サービスの詳細はWebで検索!

理学療法士協会 クラブオフ 検索



マイページのご利用について

ログインID
パスワード(PW)の
再発行

マイページへログインできない場合は、マイページログイン画面下の「ログインできない方はこちら」より、ID・PWの再発行申請をお願いいたします。

(注) お電話によるID・PWのご照会はありません。

https://www.japanpt.or.jp/inquiry/faq/mypage/system20002.html



会員マイページ専用
アプリのご案内

本会では、会員マイページ専用アプリを提供しています。専用アプリでは、マイページへのオートログインやQRコード読み取り機能による研修会参加受付が可能になるほか、本会・都道府県理学療法士会からのお知らせがプッシュ通知で受信できます。ぜひ、アプリをダウンロードのうえ、ご活用ください。

https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/newssystem/



HOT TOPICS

令和5年度補正予算で「月額平均6,000円の賃上げ」理学療法士も対象職種に

本会は政府に対し、賃金引上げに直結する処遇改善の要望活動を続けてきました。その結果、令和5年度厚生労働省補正予算で「介護職員処遇改善支援補助金」、および「障害福祉サービス事業所における福祉・介護職員の処遇改善」が実施され、理学療法士もこの補助金の対象となりました。斉藤会長はこの結果を受け、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会の代表者と一緒に、介護・障害福祉分野の関係団体等を訪問し、理学療法士の処遇改善にこの補助金が充当されるようご協力をお願いしました。今月号が皆さまに届く頃には多くの施設で賃上げが実現していることを願っています。くわしくは、会員限定コンテンツ JPTA レポートをご覧ください。



「JPTA レポート」

https://www.japanpt.or.jp/privilege/topics/jptareport/entry/20231226_544.html



「陳情および意見交換 (JPTA NEWS online)」

https://www.japanpt.or.jp/info/20240130_619.html



理学療法の体験談募集 周知のお願い

本会が運営する国民の皆さまを対象としたWebメディア「リガクラボ」では、新企画「私と理学療法」として、ケガや病気の治療で理学療法を受けた方の体験談を募集しています。会員の皆さまの勤務先にて、患者さま・利用者さまへの周知にご協力いただけますと幸いです。周知にあたり、募集チラシをご用意しておりますので、ダウンロード、印刷をしていただき、施設内での掲示や配布等に活用ください。



「リガクラボ募集記事」

<https://rigakulab.jp/2024/01/24/id000223/>



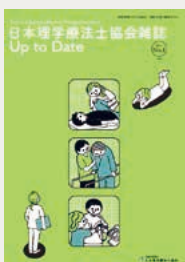
「募集チラシ」

https://rigakulab.jp/wp-content/uploads/2024/01/d0000223_02.pdf



「日本理学療法士協会雑誌 Up to Date」第2巻第1号発刊のお知らせ

2月20日(火)に第2巻第1号を発刊しました。今号の特集記事は「災害リハビリテーション」です。島嶼地の理学療法士の活動紹介も掲載しております。また、投稿論文も募集しておりますので、投稿論文を通じてあなたの業績・知見を広めてみませんか。くわしくは本会ホームページ掲載の「投稿規定」をご確認ください。雑誌は本会のマイページから閲覧ください。



マイページ ▶ 会員限定コンテンツ ▶ 生涯学習支援 ▶
日本理学療法士協会雑誌 Up to Date

<https://www.japanpt.or.jp/privilege/lifelonglearning/uptodate/>



臨床実習指導者 ブラッシュアップ講習会が開催されました

2024年2月24日(土)・25日(日)に臨床実習指導者のさらなる質の向上を目的に臨床実習指導者講習会の修了者を対象とした、臨床実習指導者ブラッシュアップ講習会が開催



※講習会はオンラインで開催されました

されました。当日は、60名にご参加いただき、4題の講義と3回のグループワークが行われ、活発な意見交換がなされました。大変多くのご応募をいただき、誠にありがとうございました。次年度も開催を予定しておりますので、ぜひご参加ください。詳細が決まりましたら、本会ホームページに掲載いたします。

マイページ(会員限定コンテンツ)へのアクセスはこちらから。



公益社団法人

日本理学療法士協会

JPTA Japanese Physical Therapy Association

公益社団法人 日本理学療法士協会会報誌 号数: No.348
発行日: 2024年4月20日

発行人: 公益社団法人 日本理学療法士協会
〒106-0032 東京都港区六本木七丁目11番10号
TEL: 03-5843-1747 FAX: 03-5843-1748

HPへアクセス

代表: 斉藤秀之
編集: 日本理学療法士協会 事務局
本会HP: <https://www.japanpt.or.jp>

